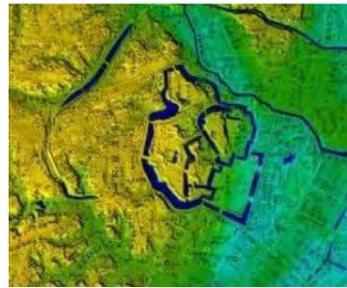


### Ⅲ. ゾーン別地域特性とまちづくりに関する考え方

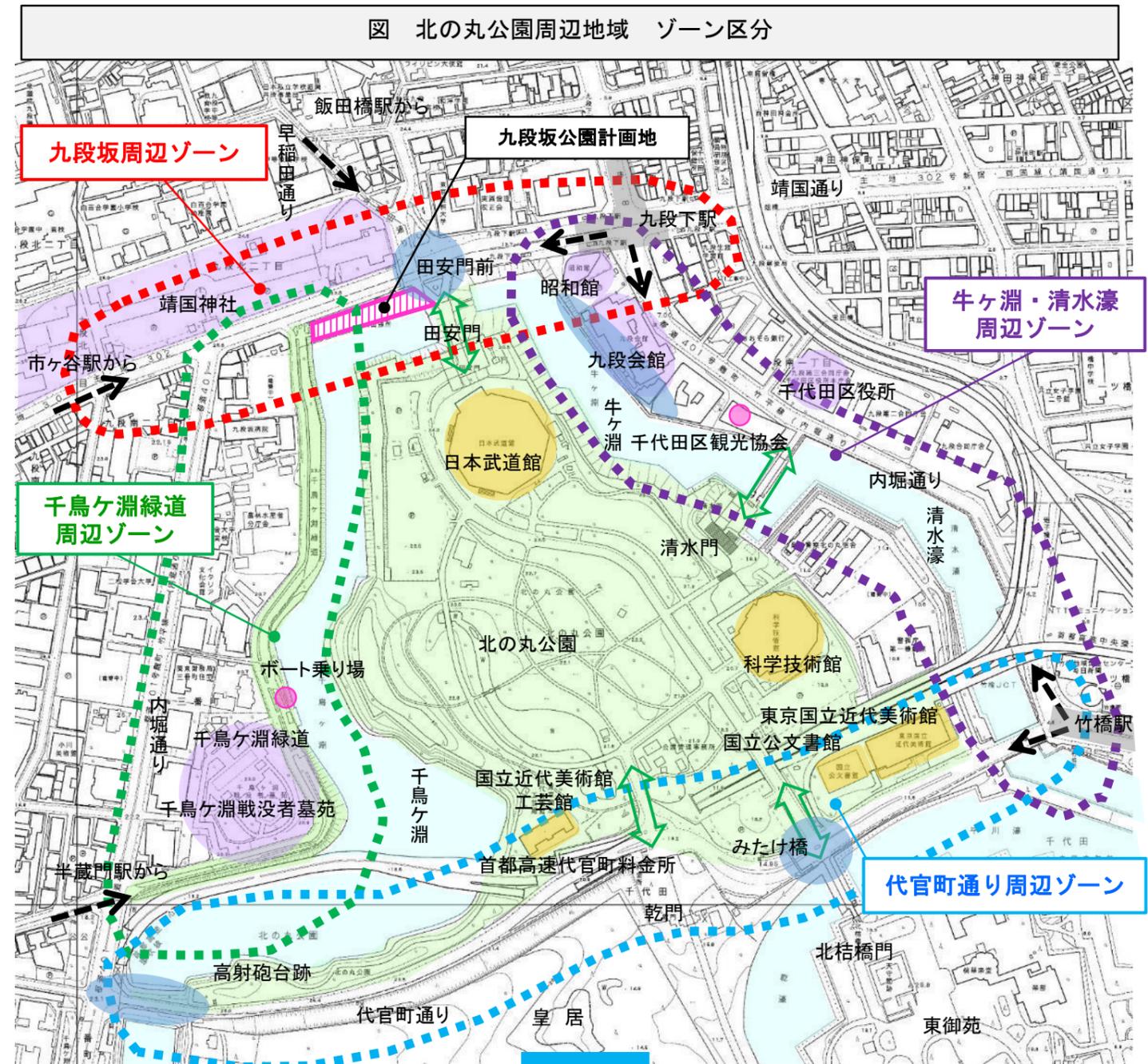
□地域全体の特性

- 地域の位置づけ……皇居・北の丸エリアは、国レベルの施設が集まる首都東京・日本の顔であり、国民全体の財産といえるエリアです。
- 立地特性……江戸城は、大河川の水害を避け、東京湾にらみをおかせる「武蔵野台地の先端」に築き（右図）、台地には家臣の武家屋敷を配置し、低地は干陸化し江戸市中とした。これが、「大きな坂道がある」、「街の雰囲気台地の上・下で異なる」という本地区の特質となっています。
- 歴史・文化などの資産……江戸城の城郭史跡はもとより、明治～昭和に至る様々な時代の資産等が存在し全国から、史跡観光だけでなく、様々な目的で多様な世代が訪れます。
- 景観……「城郭と豊かな緑」「桜と史跡」「靖国神社の大鳥居」など、歴史と自然が調和する「日本のかつダイナミックな景観」を特徴とします。
- 交通……地下鉄3駅や市ヶ谷駅、飯田橋駅など公共交通のアクセスに恵まれます。



□ゾーン毎の特性

ゾーン名	ゾーンの特性
九段坂周辺ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> <li>田安門から早稲田通りに抜ける江戸五門の一つです。</li> <li>東京 2020 大会*の会場の一つである日本武道館への入口です。</li> <li>九段坂上は、古より東京湾の眺望、観月の名所、現在はお濠と千鳥ヶ淵緑道等の桜を望む絶好の眺望ポイントです。</li> <li>九段坂公園は、北の丸公園、千鳥ヶ淵緑道の入口を結ぶ場所にあり、歴史的建造物である靖国神社の常燈明台や、明治期の偉人である品川弥二郎や大山巖の銅像が立地しています。</li> </ul>
千鳥ヶ淵緑道周辺ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> <li>千鳥ヶ淵緑道は、水と緑豊かで旧江戸城城郭の変化を楽しみながら歩ける遊歩道です。また、全国でも有数の桜の名所となっており、お花見には 100 万人が訪れます。</li> <li>千鳥ヶ淵ボート場があるなど水辺利用ができます。</li> <li>靖国神社と千鳥ヶ淵戦没者墓苑を結ぶ場所です。</li> </ul>
代官町通り周辺ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> <li>北の丸地区と皇居周辺地区の結節点に位置しています。</li> <li>竹橋から乾門前までの東側は、パブリックな北の丸公園とセミパブリックな東御苑の入口前にあり、北の丸公園側の沿道は国立近代美術館等が立地する国を代表するような重要な場所です。</li> <li>西側は、皇居と代官町通り土手に囲まれた静かな空間で、代官町通り土手は、広い空とお濠と北の丸周辺の眺望が広がる絶好の散策路です。</li> <li>南側歩道は、皇居周辺のランニングコース（左回り）となっています。</li> </ul>
牛ヶ淵・清水濠周辺ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> <li>牛ヶ淵沿いは、お濠に直接建物敷地が接する場所となっています。</li> <li>清水濠沿いは、内堀通りに面してお濠沿いの景観を楽しみながら歩ける場所です。</li> <li>中間点には、北の丸公園の入口ともなる重要文化財清水門があり、清水門は雁木坂など江戸城跡の中でも江戸時代の当時の様子を見られる重要な場所です。</li> <li>区役所をはじめとする官公庁の建物が並んでいます。</li> </ul>



□道路等管理者意見の集約

- ① 区民にとって身近な存在である「北の丸公園周辺地域」が持つ歴史性や文化性、豊かな自然を再確認するとともに、魅力を「見える」ようにしていきます。
- ② 「北の丸公園周辺地域」が持つ魅力を、区民、在勤・来街者、施設の管理者が共有します。
- ③ 施設整備を進めるにあたり、関係する公共施設管理者との協議を行い、このエリアにしかない魅力を十分に生かし、近接する日本の象徴的な空間である皇居等を含めた空間としての「北の丸公園周辺地域」を活かして行きます。